

令和3年度自己評価結果

種 別 児童自立支援施設
施設長 名 井口 敦人
実施日 令和4年2月1日～2月28日
自己評価分析実施日 令和4年3月18日
自己評価分析会議参加者 園長、副園長、課長、男子寮L、女子寮L

【自己評価結果（詳細は別紙参照）】

1 良かった点

- ① 一昨年度発生した被措置児童虐待事案の検証結果を踏まえた各種の改善策に学園一丸となって取り組み、各種マニュアルの点検及び改訂、職員研修の充実、管理職面談の機会増設などを実施し、一定の成果を挙げた。
- ② 第三者評価実施も昨年度3回目を実施し、概ね良い判定を受けた。今後も自己評価を継続的に実施していくことが必要。

2 課題

- ① 昨年度から職員の産休・育休代替職員が見つからず欠員状態が続いており、ハローワーク等で募集をしているが、なかなか採用に結びつかない。また年度途中で退職者も出たため、人員不足が大きな課題となっている。
- ② 児童自立支援施設特有の地域との交流（ニーズの把握）や開かれた施設という意味で評価が引き続き低くなった。しかし、施設の性格上どうしても閉鎖的な面があり、コロナ渦も相まって解消はなかなか難しい。
- ③ 性教育については、昨年度の第三者評価での指導を受けて、「性教育マニュアル」を策定し、「性教育委員会」を整備するなどの取り組みを進めているが、まだ不十分な点があり、今後更に踏み込んだ指導や対応が求められる。

3 まとめ

第三者評価については3年に1回であるが、実施しない期間は自己点検の意味でも自己評価を実施していくことは極めて重要である。各年度ごとに評価を行うことで、次年度へ向けて課題や目標がより明確になるという効果がある。